

日本代表 vs ニュージーランド代表 雑感(2)

前回記した^(*)「小さいこと」の第一は走り方です。ボールを持って走って行けば相手が捕まえにやってきます。そして、双方が接近し接触します。この流れの中で小さいことの一つ一つが繋がって大きい力となり、強いチームが出来るのです。小さい事の働きは ruck の数を減らしてゲームをスピーディーにする働きもあります。Unplayable になる事も減り、ミスプレーからの scrum も減れば敏捷性を活かして身体が小さくてもゲームを有利に進めることが出来ます。

小さい事の第一番目は正面の相手に対しボールを持って走るコースです。図を使って考えましょう。

図1の○の攻撃プレイヤーと▼の防御プレイヤーが10mを隔てて対面しています。

- (i) ○が直進すれば×がタックル地点になります。
- (ii) ○のコースを20°単位に想定すると正面を含め9通りあります。
- (iii) ▼が対象になるコースを走る(図2)場合と無反応なコースを走る場合があります
- (iv) 図2に入る前に正面の相手に対し swerve で交わす事を考えねばなりません。

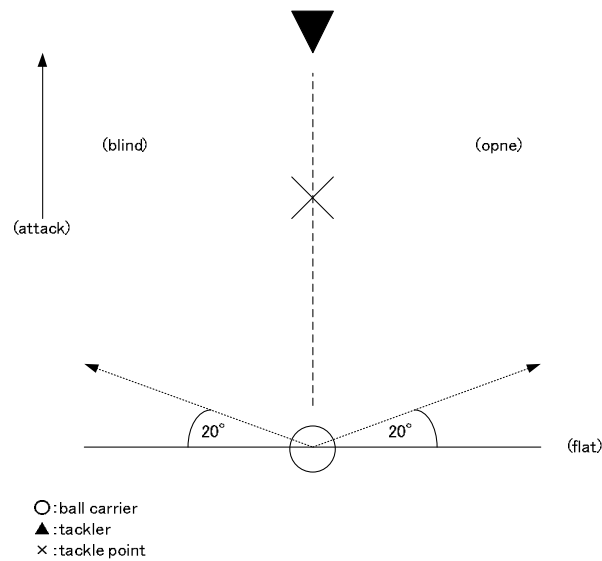


図1

図2の9通りのコースの中で例えば、

- (i) ○が open side 20° コースを走る場合、▼のコースは
 - ①対称 20° コース
 - ②無反応または中途半端対応コース
- (ii) ▼の対応の具合によって
 - ▼がずれた状態(ギャップ)を更なる展開へ広げる
 - はコースを立て直し▼の open に向けた力を利用して side step で内側突破(図3参照)

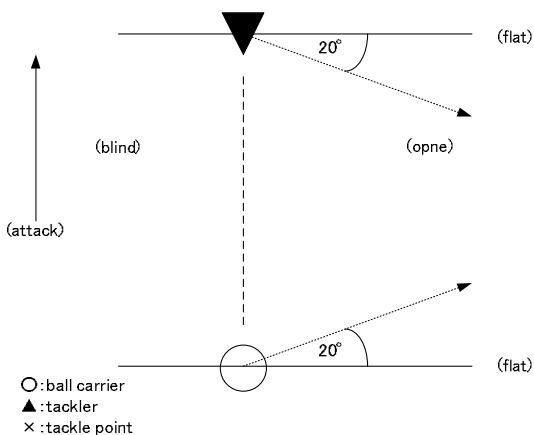


図2

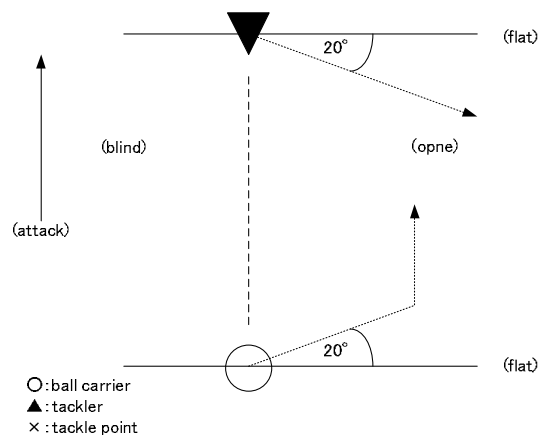


図3

以上の小さい事を常に心がけ練習することによって、更に敏捷性が養われ相手を判断する習慣と能力が養われます。ボールをもって走る時に一直線に全力で走り、相手に強く当るだけでは駄目なのです。小さな工夫で相手を負かすこともラグビーの大きな楽しみになります。ラグビーは powre と flair です。

*1: <http://nishikawarugbycolumn.web.fc2.com/column/PDF/20131106.pdf>

2013/11/10
西川 義行